

一心寺かわら版

第五十四号 令和四年一月発行

持名山一心寺 検索

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中は護持運営にご協力いただき誠に有難うございました。

二年にわたるコロナ禍もようやく終わりが見えてきたところにオミクロン株。感染予防は怠らず、大事なことで、できることからひとつひとつ進めていきたいものです。

本年もよろしくお願い申し上げます。

南無阿弥陀仏

「親ガチャ」の流行に思う

昨年の流行語大賞に「親ガチャ」がノミネートされました。「ガチャ」とは、私たちが子供の頃にガチャガチャと呼んでいた機械の略、ガチャポンとも言います。百円玉を入れてレバーを回すとおもちゃが入っているカプセルが出てくる。最近が高価なものもでき、種類も豊富になって、まだまだ人気のおもちゃです。スマートフォンのゲームでアイテムを抽選によって購入させる仕組みもガチャというそうです。

何が入っているかわからないのが楽しみですが、欲しいものはなかなか当たりにません。ついつい何度でもやりたくなくなってしまっているので、気をつけなければなりません。

つまり「ガチャ」とは、何が出るかわからない、運不運を意味します。「親ガチャ」というのは、たまたまお金持ちの親に当たった、ラッキー。貧乏な親に当たった、残念。違う親のところに生まれていたら、私の人生も変わっていたかもしれないという若者の嘆きが由来だそうです。

この「親ガチャ」という表現に対して、「生んでもらった親に失礼、親が聞いたら悲しむ」という反応が多かったようです。「私は厳しい環境の中でも努力してきた。そうできないのは努力が足りないせいだ」という「自己責任論」を支持する方が多いのでしょうか。

しかし、世の中の不平等は「生まれ育った環境」抜きには語れません。自分が生まれた家庭、育った環境、親が持つ経済力や知的財産がそのまま子へと受け継がれ、大きく影響を与えるのは事実です。

一億総中流と言われた時代が過ぎ去り、格差社会と言われるようになった現代。この苦しさを誰かのせいになんかできないならば少しは楽になれる。その時、責める相手として親以上にうってつけの存在はありません。「親という人生の宝くじに外れたから成功できないのだ」と。

新型コロナ感染症によって経済的打撃を受けた人たちを含め、多くの人々の注目が「自分の努力でどうにもならないこと」へと集まったのが、今



回の「親ガチャ」という言葉への共感、流行であり、二〇二一年を象徴的するべきことだったのでしよう。

筑波大学教授の土井隆義氏は、次にように分析しています。

「若年層では相対的貧困率が上昇し、それを反映して「努力しても報われない」と諦観を抱く人も増えた一方、七割が生活に満足しているという意識調査がある。また、「現状を変えようとするより、そのまま受け入れたほうが楽に暮らせる」と答えた高校生が、一九八〇年の二五%から、二〇一一年の五七%へと倍増している。若者からハングリー精神が衰えた」と批判的に捉えられることも多いが、現状を変えるためのハードルのほうが上がったと捉え直すこともできる。自らの人生に過大な期待をかけなくなっているとしたら、彼らを取り巻く社会環境が悪化しても、生活への不満はたしかに募っていないだろう。しかし、そうして期待値が低くなった分だけ、今度は自らの人生に対して宿命論的な見方が募っていきやすくなる。」

「親ガチャに加えて、身長ガチャ、容姿ガチャ、顔面ガチャといった言葉も出てきたが、生まれもった身体特性を対象にしている点に共通性がある。そこで嘆かれているのは、人生の運不運ではなく、出生の運不運である。ガチャのレバーを引いた時点で結果はすでに出ている。これからの人生を運次第と捉えているわけではない。これから運不運が分かれるのではなく、もうすでに決定されていると感じられているのである。」

「生まれた家庭が経済的に裕福かどうかだけではなく、頭の善し悪しや才能もそこには含まれている。それらを親からの遺伝で決まる生得的な資質と捉え、自分の人生を規定する大きな要因とみなしているのである。ここから推察されるのは、生まれつきの資質や属性によって人生は規定されると考える若者が増えているという事実である。」

「親ガチャ」に外れたと感じている若者は、親に不満を抱いていると同時に、生まれた時点で配られているカードでしか戦えない既存の社会構造に對しても不満を感じているのでしよう。

北海道大学の櫻井義秀氏は、

「社会保障の充実で苦悩は軽減できる。ガチャを不平等と捉えても平等化しえない運命的なものはある。それを不運と諦めるのではなく、苦しみ存在を認め、苦悩を負う人に共感しつつ、孤立する人に支援する道筋を探してきたのが現代の福祉社会である。親ガチャという発想が不幸である」と述べています。

ガチャガチャを回すのは私です。レバーを回して出てくるものは運次第ですが、その機械の中にある物に限られます。しかし、回す機械を選ぶことはできるはずですよ。ただ、千円のこれがいいと思っても、お金がなければ百円のものしか選べないかもしれません。どのガチャガチャを回すか選ぶことができる、努力によってそれが可能となる社会になることを願いたいものです。



では、仏教では「親ガチャ」をどのよう考えるのでしょうか。

ある日、ゴータマ・シッダールタ（お釈迦さま）は気づきます。この世は生老病死、諸行無常。生まれること、年を取ること、病になること、死ぬこと、すべて思い通りにならず、刻々と流れていく。と。親ガチャだけでなく、人生には決まっていること、選べないことがたくさんあります。王子として生まれ、お金や地位に恵まれたゴータマでもどうすることもできません。その苦しみに直面して、出家され、さとりを開かれました。

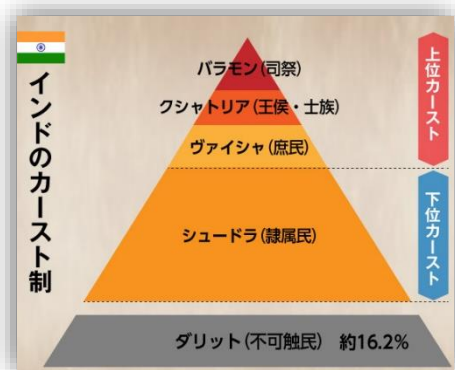
お釈迦さまがさとられた真理に「縁起」(因縁生起)があります。「因」とは、直接の原因のこと、「縁」とは因に加わる間接的な力のことです。因である種を土の中に植えて、それに水、日光、肥やしなど様々な縁が加わり、時が経つと、実を生むこととなります。私たちはその因縁すべてを熟知することはできませんし、なかなか思い通りになりません。しかし、ひとつの縁、選択が異なれば人生が違う方向へ進んでいくというのも事実です。

お釈迦さまは説かれます。

「生まれによって賤しい人となるのではない。生まれによってバラモンとなるのではない。行為によって賤しい人ともなり、行為によってバラモンともなる。」

インドにはカーストという身分制度がありました。バラモンという聖職者が最上位に位置します。最下位は不可触民といわれ、社会的、経済的に大きな差別を受けてきました。「このカーストに生まれてしまったのだから何をしようとしようもない」、そのような思いに苦しんでいた人達がインドには無数に存在していました。

だからこそ、お釈迦さまはその間違いを正して、「人は生まれではなく行為によって尊いものとなる」と力説しました。それぞれの人間がカースト(親ガチャ)に囚われることなく尊厳を持って生きていってほしいという願いのもとに。



私たちは、いただいた因縁の中で生きていくしかありません。しかし、私の行為によっていくつかの縁を変えることができます。

フィギュアスケートの羽生結弦選手は

「努力はウソをつく、でも無駄にはならない。努力の正解を見つけることが大切」と発言しています。

金メダルはひとつ、ほとんどの選手はいくら努力を重ねても取ることができません。そういう意味では努力はウソをつきます。しかし、その努力は何位になっても無駄にはならない、私の中で何かが変わる、得るものがあるということが「努力の正解」ということではないでしょうか。

前述の土井氏は、

「経済的な格差だけが問題なのではない。そもそも遺伝的な資質や才能とみなされるものですら、それを花開かせることができるか否かは、じつは生育環境のあり方に大きく左右される。すべてが生得属性で決まるわけではない。多種多様な他者との出会いの中でその本質に気づくことこそ、親ガチャに潜んだ落とし穴を回避するための有効な手立てになるのだと思う」と締めくくっておられます。

お釈迦さまは説かれます。

「善友がいること、善友と共にいること、善友と交わることが、仏道のすべてである。」

親鸞聖人は、

「思いがけずこの真実の行と信を得たなら遠く過去からの因縁を喜べ。」阿弥陀仏の本願に出遇って、皆が等しく浄土に生まれゆくこと、遙か遠い過去からの親先祖の願いが繋がっていることに喜びを感じておられます。運任せではなく、私の思いや考えも及ばない深い因縁によって阿弥陀さまと出遇うことができた并接受止められたのです。

親ガチャとあきらめることなく、良き教え、良き人との出会いの中で様々なことに気づかされ、努力していく。それが、どうにもならないことを多く抱えながらも、尊い人生を歩む道なのでしょう。

秋季永代経報告

今回も新型コロナウイルスを考慮して、住職一人でのお勤め、法話。コロナ禍でもお参りくださる方がおられ、有難いことです。感染した方の平癒を願い、関係者の努力に感謝しつつ、来年は終息することを切に願います。

万灯会&ぶちしるべ報告

十月二十三日(土)、「万灯会&ぶちしるべ」が催されました。お手伝いしてくださっているスタッフより感想をいただきました。



豊浜講中の武下純也です。今年も運営スタッフとして参加させていただきました。

境内には沢山の竹灯り、そして、プロジェクター投影による幻想的な映像が境内を彩っていました。万灯会では、みなさまの献じた灯籠と子ども灯籠を阿弥陀さまにお供えさせて頂きました。ローソクで灯された灯籠はなんとも言えない美しさで、癒されます。

今年も御住職の提案でミニ縁日も開催され、たくさんの子どもの楽し

い歓声が本堂に溢れていました。是非来年も参加したい！との声もたくさん聞かれ、とても嬉しく思います。

この「ぶちしるべ」など一心寺のイベントをお手伝いするスタッフを募集中です。ご興味のある方は一心寺までご連絡ください。一緒に楽しく、イベントを盛り上げましょう。



新たな芳名碑が建ちました

これまで、みなさまから記念事業にご寄付をいただいた際に芳名碑を建立してまいりました。今回、多額のご寄付がありましたので、記念事業以外の場合もご芳名を記させていただくこととし、新たに建立しました。

